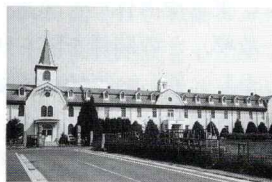


北辰

TOKYO

岐阜県立多治見北高等学校同窓会

東京支部会報 創刊第3号



平成3年10月1日

発行人 鈴木 満

'91年(第2回)東京支部総会・パーティに向けて

会長 鈴木 満



同窓生のみなさん、お元気でお過ごしですか。わが多治見北高校の同窓会東京支部が昨年の11月23日に設立されてから、早いもので満1年になるうとしています。

今、私は昨年の今ごろのことを思い出しています。支部設立を呼びかけた東京周辺の同窓生のうち、果して何人の方々がご参加くださるのか、正直に言って、不安で仕方ありませんでした。私は、「80人以下であれば失敗、100人以上であれば成功」と心積もりをし、他の発起人の方と「80人以上の方に集まってもらえるよう最大限の努力をしよう」と励まし合っていました。でも心の中は不安で一杯でした。

ところがどうでしょう。当日、主婦会館に集まった同窓生は約160人にものぼりました。大成功です。感激しました。やはり北高同窓生は母校思いなんだと。

それから1年。今、私の心は昨年とは違う不安と期待で一杯です。「昨年は第1回ということで懐かしさもあって大勢の方に集まっていただけなのかもしれない。2回目は果してどうだろうか。会員の皆さんを魅きつける面白いイベントを企画できないか」と。幸い役員のみなさん方の熱気は凄く、もうすでに4月ごろから企画委員会で次回の

支部総会・パーティでは、「北辰TOKYOカルチャーフォーラム」というイベント(詳細は企画委員の小栗幸夫氏が次稿で紹介しています。)を実行しようと準備をしてきました。最初の試みですから多くの方に参加していただいてこのイベントを成功させたいと思っています。北高同窓生のみなさん、11月23日(勤労感謝の日)には、お誘い合わせの上、四谷の主婦会館にぜひお集まりください。

なお、東京支部に続いて、大阪支部も今年11月17日(日)に発足することになりました。将来は、両支部の交流なども企画したいと考えています。

過去・現在・未来をつなぐ文化創造の場を
「北辰TOKYOカルチャーフォーラム」
へのラディカルな期待

小栗幸夫(第5回生 セゾン
グループ・西洋環境開発勤務)

超多忙の会社の仕事の合間を縫って東京と多治見を2往復するなど、この10日間ほど、私は自分の時間をほとんど持たずにいました。この期間、フィンランドから来日していた陶磁器画家・レーナ・レートさんの作品を多治見でマスコプロダクトし、同時に、彼女の個展を西武百貨店で開催するプロジェクトを何とか実現したいと動き回っていたのです。

多治見ーフィンランドー東京をつなぐプロジェクトに私が「情熱」を傾けるのには理由があります。私たちは、ともすれば、新しい事柄を、現在や未来（空間的には、東京や海外）と関連させ、過去（空間的には、故郷）との関係を断ち切ってしまうがちです。しかし、新しい事柄が私たちの関心を引き起こすという現象は、すなわち、未知の世界につながる「現在や未来」と私たちの深層にある「過去」とが放電する現象といっているのだと思います。多治見ーフィンランド……をつなぐプロジェクトは、過去・現在・未来をつなぎ、放電現象を通じて文化を創造する具体的な行為だと私には思われるのです。

で、同窓会のこと。第1回の東京会で私は大きな不満を感じました。卒業生のひとりひとりが様々な世界につながる現在や未来をもっているのに、それぞれの人が「懐かしい過去」に封じ込められているように見えたのです。なんで私は、「5回生」という名札をつけ、他の学年の卒業生に遠慮勝ちに声をかけなくちゃいけないんだ！

しかし、私の不満は、この同窓会の発案者の視野にすでに入っていたようです。私が第1回の集まりの直後の反省会で「封じ込めを止めよう！」と主張した時、それは、鈴木会長をはじめ参加者に好意的に受け止められ、早速、「北辰TOKYOカルチャーフォーラム」の原案が理事会で討議され、今年の東京支部総会で、アーティストとして活躍している卒業生を中心に「陶都と自己」を語るフ

第1回『北辰TOKYOカルチャー・フォーラム』のお知らせ

東京支部企画実行委員会委員長 国光正憲（3回生）

第2回東京支部同窓会の総会後、下記の要領でカルチャー・フォーラムを開催致します。

- テーマ 「陶都と自己」
- 内容 スライドによる作品紹介。高校生活と芸術活動との関わりについての討論など（約45分間）
- パネラー ★加藤裕英（4回生・京都市立芸大卒・陶芸家）
- ★長江慎二（5回生・武蔵野美術大卒・画家）★宮田昌作（6回生・武蔵野美術大卒・造形家）★岩田実（7回生・東京芸大卒・彫刻家）★天野裕夫（12回生・多摩美術大卒・彫刻家）★佐々木悟郎（15回生・アートセンター卒・イラストレーター）
- コーディネーター 小栗幸夫（5回生・西洋環境開発勤務）

ォーラムを実験的におこなってみようという合意が生まれたのです。

さすが多治見北高！私には、「カルチャーフォーラム」が確かな成果につながるという自信があります。それは、私たちの同窓生・宮田昌作（ハンブルグ在住・環境造形家）との再会をきっかけとして1988年に始まったアートイベントが、多治見や東京で多様な展開を見せてきたという実績があるからです。

放電現象を通じて、過去を蘇生し、現在や未来をひらこう。これは、様式の模倣や伝統の継承を越えた、文化創造の試みなのだ！私は、こうして、真面目に「カルチャーフォーラム」を提案し、東京支部が既成の同窓会の枠を飛び出すことをラディカルに期待しているのです。

THE 北辰マン&ウーマン

このコーナーは、各界で活躍中の同窓生たちのレポートをお届けします。今回は、台湾・大正製薬の現地責任者として滞在4年の愛知紘治さん（1回生）と、藤原歌劇団でオペラに挑戦中の亀山朋子さん（21回生）です。

近くて近い 国となる日を願って…

愛知紘治（1回生）

大家、你好!!（皆さん、こんにちわ!!）、台湾から近況を報告致します。

今年7月、一時業務にて帰国した時、同期生の鈴木満君、後輩の梶田卓君から同窓会誌に台湾レポートをとの依頼を受け、その時は何かのお役に立てばと簡単に引き受けたものの、仲々筆が進ま

ず、締切り間際になって近況をお届けすることになった次第です。

台湾と言えば3～4年前から発展するアジア経済圏の四龍の一つとして脚光を浴びるようになり、又観光地として知っている方も多いと思いますが、この数年の経済の発展には目覚ましいものがあり、現地にいてその速さに驚いております。台湾は人口約二千万人、大陸（中国）の60分の1、昨年の貿易総額1,600億米ドル、一人当りのGNP8,000米ドルで中国大陸全土に匹敵する経済力を有し、現在では外貨保有高は日本を抜いて世界一に躍進、最近では東欧バルト三国への経済支援を申し出るま

での経済大国になっております。

この台湾も一昨年、日本と同様、株が大暴落、バブル経済の崩壊を見ておりますが昨年から落ち着きを取り戻し、今年春、台北←→高雄間の新幹線建設、第二高速道路建設など大きなプロジェクトを盛り込んだ国家6ヵ年計画を発表し、国を挙げて取り組んでおります。又経済の発展と共に、従来の労働集約型産業から技術・知識集約型産業、ハイテク産業へと脱皮すべく、政府主導により急ピッチで進められております。

私は4年前、親会社から台湾の合併会社に赴任を命ぜられ、以来現地製薬会社で頑張っておりますが、赴任当時は戒厳令下にあり、台北市内の要所要所に銃を持った兵士が多く見られ、物々しい雰囲気を感じられました。が、1989年、戒厳令が廃止されてから、台北市内もすっかり変わり、民主化、自由化が進み、日本の都市と変わらないまでになりました。この2、3年、日本の商品は何でもと言っていい程手に入るようになりました。しかし一方、民主化、自由化が進むと平行して、治安の悪化が進み、暴力団の抗争、殺人事件、盗難など日常茶飯事のこととなり、政府もその防止に躍起となっている現状です。

情報のグローバル化は速いスピードで進んでおりますが台湾も例外でなく、2～3年前からNHK衛星放送が無料?で見られ、日本のニュースは

リアルタイムで見ることが出来ます。貴花田、若花田など台湾でも人気が出つつあります。パチンコなども台北市では大へんな勢いで増えており、台湾の人の間では、戦前の軍による支配から経済、文化による植民地化を心配する声も聞かれます。

日本と台湾の関係は政治的には1972年日本が中共と国交を樹立して以来、断交の状態で国交がなく、民間による交流のみとなっております。経済の交流は益々深まっており、それによる台湾側の対日貿易赤字が増える一方で、大きな問題となっております。この貿易摩擦と尖閣列島領有権問題が日台二国間の政治問題で折にふれて火を噴くやっかいな問題です。日本では中国大陸の情報はすぐ入ってきますが台湾のことは観光以外余り報道されていないため、台湾の事情を知っている人はほんとうに少ないと思います。少しでも台湾の事情を知っていただき、飛行機で東京←→台北三時間の近くて遠い国が、近くて近い国となるよう現地駐在員は希望しております。

今回台湾についてほんの一部を報告させて頂きましたが、もっと詳しく知りたい方は、日本で発売されている別冊宝島127、「謎の島・台湾」という本を読んで下さい。一端の台湾通となれること保証致します。

それでは皆さんお元気で!! 再見!!

夢は大きくスカラ座公演

亀山朋子
(21回生)

私は21回生で、北高時代は音楽部に在籍していました。現在は藤原歌劇団に所属しつつ、フリーの音楽家として活動しています。今年の5月、オペラ「椿姫」に初めて出演しました。昨年秋、北高同窓会・東京支部総会が行なわれた時は、オーディションの合格通知があった直後でしたので、同期の友人達に初舞台を見てもらうことができました。

北高卒業生の中では、私のような経歴は珍しいと言われますが、北高生でなければ今の自分はないと思っています。というのも、北高の音楽部にいたことがきっかけのひとつとなったからです。ただ楽しく歌うだけでなく、人の心を打つ歌には技術的な訓練が必要なことをそこで知りました。

練習を重ね、大きな声や高音域が出るようになると、もっともっとうまくなりたいと思うように

なり、音楽大学への道を決意しました。ピアノさえ、まともに習ったことのなかった私でしたが、武蔵野音大に入学することができ、在学中のオペラとの出会いが、この道に進む大きなきっかけとなりました。


あいにくチケットは手に入りませんでした。ミラノ・スカラ座の公



オペラ「椿姫」のフローラ役で

演をテレビで観たその時に、オペラの素晴らしさに魅かれ、自分がヒロインを演ずることができたと、大きな夢を見るようになりました。

4年生の時、就職も考えないわけではありませんでした。夢を信じて大学院のオペラ・コースに入り、基礎から勉強をし直し、新しく師事した先生の教えに従って、レッスンとアルバイトの日々を送ることになりました。大学院を出て、さら



このコーナーでは、同窓生がよく顔を見せる「たまり場」を紹介していきたいと思ひます。「旬彩ーしゅんさい」は、東京支部役員が打ち合せ等でよく利用させてもらっているところです。他にこうした場所がありましたら編集部まで御一報下さい。

旬彩

▶〒105 東京都港区新橋1-5-1
葉ビルB2 (銀座9ビル2号館と
なり) ☎03(3571)2025

北高OB・東京支部の皆様いかがお過ごしでしょうか。北高OBの集り処『旬彩』のマスター(かっちゃん)と看板娘(ゆみちゃん)です。一度皆様には春のお便りを差し上げましたが、多くのOBの方々にご利用いただき本当に嬉しく思っています。

この場をお借りして、もう一度、簡単にお店の紹介をさせていただきます。マスターのお兄さんは北高7回生で、ボクシング部で活躍をしていました長谷川進さんです。知る人ぞ知る(ワルで)パイタリティーあふれる二枚目です。そして、2年前には名古屋で看護婦をしていました私、ゆみちゃんです。

看板のお酒は東濃・笠原の名酒“三千盛”です。料理は懐かしい東濃、名古屋の味を産地直送の材料で調味しています。どて煮、味噌カツ、味噌おでん、へぼ、イナゴ、じねんじょ、などなど、あの日、あの頃の味を思い出していただけるものと思ひます。

北高OBの皆様、ふる里の味を楽しみながら、思いがけない再会でひと時をお過ごしになりませんか。心より皆様の御来店をお待ち致しております。かっちゃん、ゆみちゃんでした。

に2年間の後、藤原歌劇団の門をたたくことができ、少しではありますが、夢に一步近づけたかなと思ひています。

まだまだ勉強中ではありますが、舞台の仕事もできるようになり、楽譜を持って走り回る毎日が楽しくてしかたありません。最後になりましたが、5月のオペラ公演に駆けつけていただいた皆さん、本当にありがとうございました。

原稿大歓迎!!

東京支部会員相互の、また、北高と会員との交流の「場」として、「北辰 TOKYO」の内容を充実させていきたいと考えています。会員の方々からの投稿をお待ちいたしております。

〔応募要領〕

★内容……北高時代の思い出やエピソード、北高の近況、北高に望むことなど北高にまつわるもののほか、携わっている仕事や最近起こった(または思ひた)事柄など会員の近況に関わること、支部の運営や活動、北辰 TOKYOに対する意見・企画に関わること…… etc 写真・イラスト付きなら大歓迎! (要するに何でも構ひません。)

★体裁……原稿用紙、ワープロ、便せんなど体裁は問ひません。

★分量……400~800字程度。

★締切……特にありません。いつでも結構です。

★宛先……〒160 東京都新宿区内藤町1-6

内藤町ビル2F

(株)ビジョンプランニングインターナショナル内
多治見北高同窓会東京支部

「北辰 TOKYO 編集部」

TEL 03 (3351) 8 8 1 1

住所などが変更された場合や名簿の記載漏れにお気付きの際には至急ご連絡を!

会員名簿の充実は、支部活動の要です。会員の皆さんの住所や勤務先、電話番号など名簿に記載されている内容が変更されたときや、東京周辺にお住いの北高OBの方で名簿に記載されていない方にお気づきになりましたときは、事務局に、ハガキまたは電話でお知らせください。